

要 旨

本研究は、生活科の学習において、自分のよさや成長に気付く子どもを育てるための指導の在り方について研究したものである。人とかかわり合う学習活動において、かかわる喜びや成就感を味わわせるために、振り返り活動で自己評価をさせたり、友達同士の相互評価や教師、かかわった対象等からの他者評価を取り入れさせたりした。これらに関連させ、1枚のシートに自己評価と他者評価を残していき、振り返りの材料となるよう手立てを取った。その結果、人とかかわる喜びや成就感を味わい、自分を見詰め、自分のよさや成長に気付く児童が育ってきている。

〈キーワード〉 ①自分のよさや成長 ②かかわる喜びや成就感 ③自己評価 ④他者評価

1 研究の目標

自分のよさや成長に気付く子どもを育てるために、人とかかわり合う学習活動において、かかわる喜びや成就感を味わわせる場面を取り入れた学習指導の在り方を探る。

2 目標設定の理由

小学校生活科は、具体的な活動や体験を通して、自立への基礎を養う教科である。平成20年3月告示の新学習指導要領において、新たに「身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにする。」¹⁾が目標に加わった。この目標は、生活科で目指す学習、生活、精神の自立のうち、「自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつことによって、現在及び将来における自分自身の在り方に夢や希望をもち、前向きに生活していくことができる」²⁾という児童の精神的な自立を指すものである。これは、佐賀県教育の基本方針で課題として挙げられている、自らの生活や将来にかかわって学ぶ意欲の向上に通じるものであり、自分の特徴や可能性に気付き、自らの成長についての認識を深めることの重要性を示している。

そこで、本研究ではグループの研究課題を受け、人とかかわり合う学習活動で、自分の思いや願いを実現させていく場を仕組み、成就感やかかわる喜びを味わわせる場面を取り入れることで、自分のよさや成長に気付かせることができると考える。かかわる対象が人であるということは、自分の働き掛けに対し、表情、言葉など、目の前で反応を見たり聞いたりできる利点がある。この利点を、児童の思いの実現に向けた学習活動の見直しや自己評価などの場面に生かし、自分のよさや成長に気付かせていきたい。自分のよさや成長に児童が気付くことができれば、自分に自信をもち、学習や生活の場面で自分の考えで判断したり、表現したりしてみようといった意欲の向上にもつながると考える。

自分を客観的に見詰めることの難しい児童が、自分のよさに気付くために、他者評価を取り入れていく。自己評価により自分の活動やがんばり、よさに気付き始めた児童は、他者から褒めてもらい認められることで、自分が気付いたよさと一致させ、自分自身への気付きを意識するであろう。単元の終末段階で、自己評価や他者からの肯定的な評価により得られた自分自身への気付きや、喜びや成就感を表現させていけば、自分のよさや成長に気付く子どもが育つであろうと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

学習活動の振り返りの場面において、他者からの肯定的評価に関連させ、自分のがんばりを認める自己評価活動を位置付ければ、自分のよさや成長に気付く子どもが育つであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 自分自身への気づきを深める指導法に関する文献や先行研究を基に理論研究を行った。
- (2) 人とかかわることや自己意識に関するアンケート調査を基に実態調査を行い、分析を行った。
- (3) 「みんなあつまれやっほいほい～見守り隊のおじいちゃん・おばあちゃんにありがとうを伝えよう」「みんなあつまれやっほいほい～幼稚園の友達といっしょにあそぼう」で検証授業を行い、振り返り活動で、自分自身への気づきが表現できるか、また、友達のよさを見付けたり、他者からの肯定的評価を受け入れることができるか。さらに、これらから自分のよさや成長に気付くことができるかについて調査し、分析した。

5 研究の実際

(1) 文献による理論研究

生活科において、「対象への気づき」から「自分自身への気づき」へと高めることは、「自己認識の芽」を育てることであり、児童が自分自身のことをよく知り、よく分かるための第一歩である。そのために、振り返り活動で自己評価活動が重要になってくる。梶田は、「自己評価が、外的な評価の確認を伴った形でなされるならば、独りよがりでない客観的な妥当性をもつ自己認識を成立させていく上で貴重なきっかけを与えてくれるものになるであろう。」³⁾と述べ、自己評価に外的客観的な視点を関連させていく有効性を示している。このような自己評価により、自分自身のイメージを深めさせ、自分自身のよさや可能性に気付かせることは、自立への基礎を養わせる上で大切なことだと考える。

そこで、本研究では、振り返り活動で、自己評価活動として、児童に自分自身のことを見詰めさせ、気づきを表現させる活動を取り入れることにする。また、友達同士の相互評価や、教師、かかわった対象等からの他者評価も取り入れて、自分を振り返らせるようにする。その際、他者評価はよさを認めさせ、活動への意欲をもたせるために、肯定的評価とする。このように自己評価と他者評価を関連させて指導していけば、自分を客観的に見詰めることの難しい発達段階の低学年の児童でも、自分のよさや成長に気付くことができると考える。

(2) 授業の実際

ア 実践化への手立て

(ア) 自己評価と他者評価を関連させた振り返り活動の工夫

図1のような流れで学習を行う。毎時間、振り返り活動の時間を設け、自分の活動の反省や友達との意見交流後に、自己評価Iとして、「気づきマップ」に自分自身への気づき、友達への気づき、対象への気づきを書かせる。同時に、友達の活動の様子から、よかったと思った点や、その理由などを「よかったよカード」に書かせ、互いに交換させる相互評価も行わせる。自分のよさに気付かせるためには、自分のことだけに視点を置かせるのではなく、自分の周りの環境にも視点を置かせ、気づきを深めさせていくことが必要であると考え。また、教師からも毎時間、児童の気づきや活動に対し、付せんに書いて評価を返すようにする。よさを認めたり、励ましたりすることは、学習の価値付けを担うといえる。さらに、かかわった対象等からの他者評価も適宜取り入れさせる。他者からの称賛の言葉は、児童の活動に対する意欲を高めさせたり、活動に対する喜びや成就感、自分への自信をもたせたりするであろう。

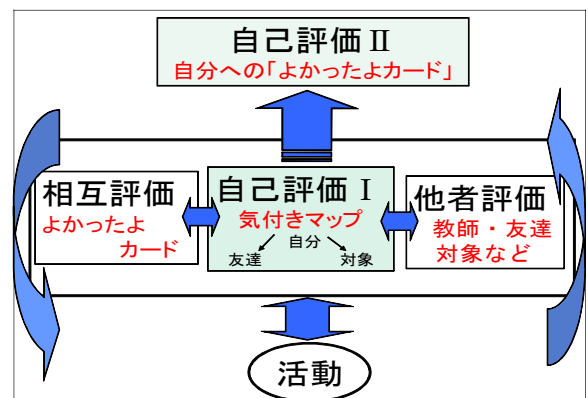


図1 学習の流れ構想図

単元の終末には、自己評価Ⅱとして、自分への「よかったよカード」に、自分のよさや成長について表現させる。この際、自分のよさや成長に気付かせる材料とするために「気付きマップ」を活用させる。この自己評価Ⅱは、これまでの学習の成果を確認し、次の活動への意欲と方向付けになると考える。

(イ) 具体的な手立てとねらいについて

自己評価と他者評価を関連させるため、表1の手立てを取り、ねらいをもって指導した。

表1 具体的手立てとねらい

手立て・ワークシート	ねらいと留意点 (○ : ねらい, ● : 留意点)
<p>自己評価Ⅰ～気付きマップ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のことだけでなく周りの環境にも目を向けさせ、表現させていくことで、気付きの質の高まりが見られると考える。「○○しました。」等の直感的な事実の気付きから、「○○と分かりました。」「○○できました。」等と、実感して自分なりに価値付けた気付きや、自分の成長を自覚した気付きへと、変容していくことをねらう。 ● 活動を振り返り、自分への気付き、友達への気付き、対象への気付きを分けて書かせる。上から下へ、時系列に書かせる。 ○ 児童が他者評価を取り入れ、活動を見直したり、意欲をもったりできるように、また、自己評価Ⅱで、自分のよさや成長を気付かせるための、振り返りの材料となることをねらう。 ● 気付きの記述の左側には、自己評価と他者評価を関連させるために、友達からの「よかったよカード」や、教師や対象からの評価を張らせる。
<p>自己評価Ⅰ～変身！ビンゴカード</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のめあてと自己評価の一体化をねらう。できることが増えていくことで、かわる喜びや、できるようになったことへの達成感を味わうことができると考える。 ● この学習で「こんなことができるといいな、できるようになりたいな」と思うことをカードに書かせる。これは、単元を通して目指す具体的児童の姿でもある。授業の始めに、気付きマップ（他者評価も含む）を読み返し、「できた」ものを、○で囲ませる。客観性をもたせるために、自分への気付きとして書いている場合や、他者から褒めてもらった場合に、「できた」と認めるようにする。
<p>相互評価～よかったよカード</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達のよさに気付かせ、認めさせることで、活動の充実や向上をねらう。 ○ 交換し、受け取ったカードは他者評価にもなる。自分が友達からどのように見られているか知ることができ、自分の分析の材料になる。また、褒められることで、自分のよさの自覚化もねらう。 ● 気付きマップの記入後、カードに記入させ交換させる。内容は友達のよかったと思う行動や発言など。そう思った理由も付け加えさせる。
<p>他者評価～教師からの評価</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の学習の価値付けをねらう。 ● 毎時間、黄色の付箋に書き、「気付きマップ」に張って、残させていく。活動や気付きのよさを認めたり、励ましたりするようにする。また、一方で、活動や考えの修正をするよう、アドバイスも与えるようにする。
<p>他者評価～対象からの評価</p>  <p>↑ビデオで ↑手紙で</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ かかわり合って学んできたことに対する、喜びや達成感を味わわせることねらう。自分たちの活動のよさや自分のよさや成長に気付かせたいと考える。 ● かかわった対象からの評価は、児童の活動のよさを認める肯定的評価となるようにしておく。 ● 授業の始めに、活動の意欲をもたせるために与えたり、終末段階で、学習の成果や結果として与えたりする。手紙や写真、ビデオなど児童が直接見ることができるよう準備する。また、手紙などは、いつでも読み返すことができるよう、一人一人に渡すようにする。
<p>他者評価～家族からの手紙</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のよさや成長の自覚、生活で生かすことをねらう。 ● 家族には、ワークシート等で活動を児童と一緒に振り返ってもらい、児童のよさや成長したと思われる点を見付け、書いてもらうようにする。

(ウ) 検証の視点

- a 視点Ⅰ～振り返り活動で、自分の活動や友達との意見交流後、気付きマップに自分自身への気付きを書くことで、自分を見詰め、自分への気付きの質の高まりが見られるか。
- b 視点Ⅱ～自分の活動や友達との意見交流後、気付きマップに友達のよさを認め、気付きを書くことで、気付きの質の高まりが見られるか。
- c 視点Ⅲ～単元の終末段階において、これまでの自己評価や他者評価を基に、自分を振り返り、自分のよさや成長に気付くことができるか。

イ 検証授業①

(ア) 単元の概要

- a 単元名 「みんなあつまれやっほいほい～見守り隊のおじいちゃん・おばあちゃんにありがとうを伝えよう」(平成20年11月実施)
- b 単元の目標
 - ありがとうの気持ちを伝えるために活動を決め、進んで行おうとする。(関心・意欲・態度)
 - 喜んでもらうために自分たちにできることを考えたり、したことやがんばったことなどを表現したりできる。(表現)
 - 見守り隊の方とかかわったり、友達と喜んでもらうための活動をしたりした自分のよさや成長に気付くことができる。(気付き)
- c 単元計画(全13時間)

時	主 な 学 習 活 動 (*は検証授業)
1	見守り隊体験をしよう
2・3	見守り隊のひみつを見付けよう
4・5	ありがとうを伝えよう～どんなことができるかな
6・7	ありがとうを伝えよう～工夫して仕事をしよう *1/3
8・9	ありがとうを伝えよう～工夫して仕事をしよう2
10・11	ありがとう会をしよう
12	がんばったよ, ありがとう会 *2/3
13	自分のいいところやできるようになったことをさがそう *3/3

(イ) 手立ての実際と抽出児童A児の変容

表2に自己評価ⅠでのA児の気付きとA児が受けた他者評価との関連を示す。

表2 自己評価Ⅰの気付きと他者評価の関連(記述内容は一部抜粋, __は自己評価Ⅱへの影響)

	自分への気付き	友達への気付き	よかったよカード	教師からの評価等
記述内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>名前が分からなかった。</u> ・ <u>インタビューをして写真を撮った。</u> ・ <u>調べていたので, どんどん仕事ができて嬉しかった。</u> ・ <u>写真を撮ってきたので, みんなが褒めてくれた。嬉しい。</u> ・ <u>たくさん来てくれて嬉しい。してよかった。まだ長生きして下さいね。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ S君は電話をして聞いてすごい。 ・ T君は, <u>写真やメモをとってきてすごい。</u> ・ K君やR君は名簿を持ってきてくれた。 ・ <u>みんながいてくれたから, 仕事ができた。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>いっしょにがんばろうね。○地区を調べようね。</u> ・ <u>自分で写真を撮ったり, 見守り隊のことを調べてきてすごいね。</u> ・ <u>13枚も写真を撮ってきたね。おかげで, もっと知りたいが進んだよ。</u> ・ <u>写真とメモを持ってきてえらいね。ありがとう。助かったよ。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>そうね, 準備をしていないと, お仕事できないね。次はどうしたらいいかな? 考えよう。</u> ・ <u>進んでお仕事できてすごいな。気持ちも嬉しくなるね。みんなもほめていたよ。</u> ・ <u>質問をしたのはおじいちゃんたちのことを知りたかったんだね。勇気を出したね。</u> ・ <u>インタビューに行ったから, たくさん来て下さったのよ。一生懸命の心が伝わったね。(家族)・友達と仲良くがんばったね。ありがとう。</u>

さいしょ、じゅんびをしてい^んなかつたからこまったね。^{んか}
 しゃしんやメモをもってきてくれたから、ぼくもまねしておじい
ちゃんに、手^てだ^てでもら^うって、しゃしんをとり^にいら^なったね。じゅん
びをしたら、ど^んど^んおし^ごとができたね。じゅん^びがたいじと
 わかったね。「がんばったね。」すこ^かー。たす^から^たよ。とみんなお先生^が
 ほめられてうれしかったね。すんでい^いとをしてうれしかったね。インタビューを
 ちょうせんしてよかったよ。はじめは、はず^かし^かったけど、もう見守^りたいのおじい
 ちゃんたち^とな^かよ^くな^れたよ。長^く生^きてほ^いいから、も^っと元^気にあ^いさ^つし
て帰^ろう。ぼくのおじいちゃんも後^だち^とな^かよ^くが^んば^った^ねとほめて
 くれたね。みんなかいてくれなかつたら、ありがとう会^はで^きな^かつ^たね。み^ん
 なか^いてくれ^てよ^かつ^たよ。お^とこ^んで^もら^えよ^うた^よ より

図2 A児の自分への「よかったよカード」(は自己評価Iと他者評価の関連)

図2は自己評価IIでA児が書いた、自分への「よかったよカード」である。 は自己評価Iと他者評価の関連が見られたところである。

A児は、準備不足で思うように活動ができず困った。A児は友達がインタビューをし、写真を撮ってきたのを見て、友達のよさを認める。その後、A児もインタビューを行い、写真も撮ってくる。A児は活動が順調に進み、友達からも褒められ、調べ活動を進んでしてよかったと成就感を味わったと思われる。図2から、A児は進んで活動できた自分のよさに気付いている。また、活動をするときは、準備が大事だと気付いている。A児は活動をやり遂げられたのは、友達がいたからだ、友達への感謝の気持ちも、もてるようになってきている。さらに、A児は見守り隊の方に元気にあいさつをすることが、見守り隊の方を喜ばせることだと気づき、元気にあいさつをして帰ろうと意欲も示している。

ウ 検証授業②

(ア) 単元の概要

- a 単元名 「みんなあつまれやっほいほい～幼稚園の友達といっしょに遊ぼう」(平成21年1月実施)
- b 単元の目標
 - 幼稚園児が楽しめるように進んでかかわろうとしている。(関心・意欲・態度)
 - 幼稚園児が楽しめるように、おもちゃや遊び方の工夫をし、それを表現できる。(表現)
 - 遊びを通して、幼稚園児との違いやかかわり方、自分のよさや成長に気付いている。(気づき)
- c 単元計画(全14時間)

時	主な学習活動(*は検証授業)
1・2	幼稚園に遊びに行こう～違いをさがそう
3・4	何ができるかな?計画を立てよう
(図2・国2)	おもちゃを作って遊ぼう(図工2)おもちゃ作りの説明を書こう(国語2)
5・6	幼稚園の友達のために工夫しよう
7・8	幼稚園の友達といっしょにおもちゃを作ろう *1/3
9・10	もっと楽しく遊ぶ工夫をしよう
11・12	幼稚園の友達とおもちゃで遊ぼう *2/3
13	がんばったね、幼稚園の友達との遊び
14	自分のよいところやできるようになったことをさがそう *3/3

(イ) 手立ての実際と抽出児童B児の変容

表3 自己評価Ⅰの気付きと他者評価の関連 (記述内容は一部抜粋, __は自己評価Ⅱへの影響)

	自分への気付き	友達への気付き	よかったよカード	教師からの評価等
記述内容	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの説明をがんばった。次は<u>優しくしてあげたい</u>。 A君とけんかをしてしまったので、<u>あんまり楽しくなかった</u>。 優しくしたら、見送るときに、「<u>ありがとう</u>。」と言ってくれた。また優しくしたい。 自分から先に声を掛けることができた。手をつないで行動もできたよ。ちょっとだけ手伝いをして、たくさんさせてやったので、ニコニコしてくれて嬉しくなった。<u>工夫してよかった</u>。作るときは<u>幼稚園の人のスピードに合わせてたり、目の高さにしてすることが大事</u>と分かった。分からないところは<u>教えてあげたい</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> Tちゃんが幼稚園の<u>人のペースに合わせて</u>と言ったので、ぼくも今度からしたい。 A君がしよんぼりしていた。謝てくれた。 A君とS君がニコニコ笑顔で教えていたので、T君は嬉しそうだった。 Sくんは、2匹しか釣れていないD君のところに<u>魚を動かしてくれた</u>ので、いっぱい釣れるようになった。 ぼく一人じゃお世話できなかつたけど、<u>グループ全員いたからできた</u>。<u>用意をいっぱいしておく</u>と、たくさん作れて楽しい。けんかもしたけど、<u>仲直りした</u>ので楽しくできた。 	<ul style="list-style-type: none"> じゃんけん列車の説明を<u>ゆっくり優しくできて</u>すごいね。 けんかになって残念だったよ。今度は仲良くがんばろうね。 自分から声を掛けてえらいね。<u>やさしくしたらニコニコになる</u>ね。「ありがとう。」と言ってもらってよかったね。私もまねしてがんばるよ。 分かりやすく説明できて、<u>すごい</u>ね。ぼくもまねしたら笑顔でできたので、嬉しかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 説明が、分かりやすかったよ。<u>お手本を見せてくれた</u>からね。Tちゃんの「<u>幼稚園の人のペースに合わせて</u>」は、大事なことだね。 けんかになったら、<u>楽しくない</u>ね。周りの友達も楽しくないね。 優しくしたら、<u>嬉しい言葉が返ってくる</u>ね。今日はA君もニコニコでよかったね。<u>笑顔は人の心を嬉しくさせる</u>ね。 S君の優しいところをよく見付けてくれましたね。 (幼稚園児やその保護者) お兄さん、魚釣りがおもしろかったよ。<u>教えてくれてありがとう</u>。 魚作りと魚釣りが、とても楽しかったと<u>大喜び</u>でした。ありがとうございます。 (家族) 恥ずかしがらずにあいさつしたり、教えることは難しいことね。<u>がんばって実行して感動</u>したよ。これからもいろんな事にチャレンジしてね。



図3 B児の変身！
ビンゴカード

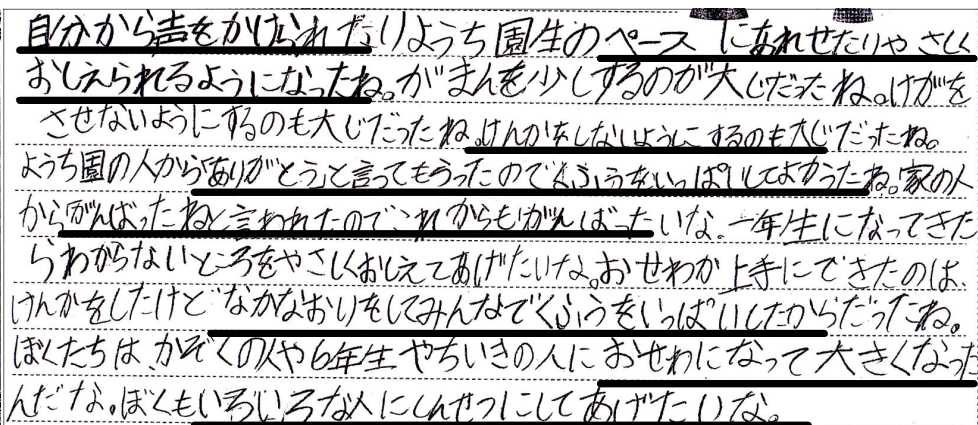


図4 B児の自分への「よかったよカード」(__は自己評価Ⅰと他者評価の関連)

表3は、B児の自己評価Ⅰの気付きと他者評価の関連である。B児は友達「幼稚園の人に合わせてやらんばよ。」という言葉や、そのかかわり方によさを感じ、認めている。B児は自分もそうしたいと願い、ペースを合わせたり、目線を合わせて優しく教えようと努力した(図3, 4)。また、B児は自分から声を掛けることができたことや、幼稚園児のために遊びの工夫をしたことを、自分のよさや成長として感じている。活動の途中、チームの友達とけんかになったが、仲直りしてみんなで幼稚園児の世話をできたことに、B児は友達と学ぶ喜びや成就感を味わっていると思われる。さらに、自分もたくさんの人に優しくしてもらって大きくなってきたことに気付きB児は、これからたくさんの人に優しくしたいと意欲を示していることが図4の記述から分かる。

エ 考察

(ア) 学年全体の気づきの変容

気づきは表4のように高まっていくと考え、3段階に分類した。この分類により、学年全体の自分への気づき、友達への気づきの変容を見た。

表4 気づきの段階

事実に基づく気づきの段階	価値に基づく気づきの段階	成長に基づく気づきの段階
直感的に事実をとらえたもの <ul style="list-style-type: none"> 〇〇して楽しかった。 見守り隊の人の名前が分からなかった。 Tちゃんが「幼稚園の友達に合わんばよ。」と言った。 	実感して自分なりに価値付けたもの <ul style="list-style-type: none"> 〇と思っていたら、△だったよ。 準備したら、どんどん仕事が進んだよ。 幼稚園の友達に目の高さを合わせたら、やっぱり教えやすかった。 	自分の能力の変化、将来の前向きな考えをもったもの <ul style="list-style-type: none"> 始めはできなかったけど、〇〇ができるようになったよ。 準備が大事と分かったよ。 相手に合わせてやることが大切と分かったよ。相手に合わせたい。

a 自分への気づきの変容(視点Ⅰ)

検証授業①では事実に基づく気づきや価値に基づく気づきが多かった。成長に基づく気づきは、わずかであった。しかし、検証授業②では、成長に基づく気づきも多く見られるようになった(図5)。

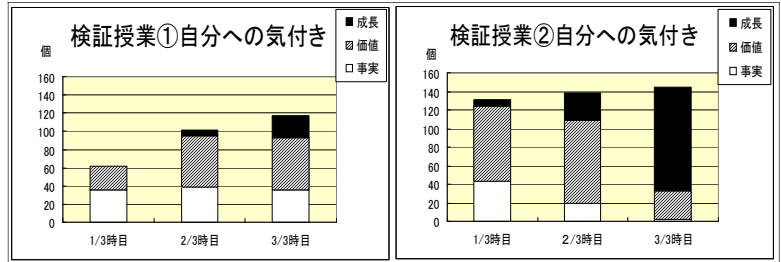


図5 自分への気づきの変容

特に、検証授業①②共に3/3時において、成長に基づく気づきが増加したのは、友達や教師以外にかかわった対象や家族からの評価を児童に受け取らせたためと思われる。単元の終末段階に児童の活動のよさを認める肯定的評価を受けさせたことで、児童は自分ができるようになったことを自覚していったと考えられる。

b 友達への気づきの変容(視点Ⅱ)

検証授業①では、事実に基づく気づきや価値に基づく気づきのみであったが、検証授業②では、成長に基づく気づきが見られるようになった(図6)。検証授業②では、児童と対象と1対1のかかわり合いをさせたため、児童は困ったとき、友達のかかわり方のよさを取り入れて活動していた。

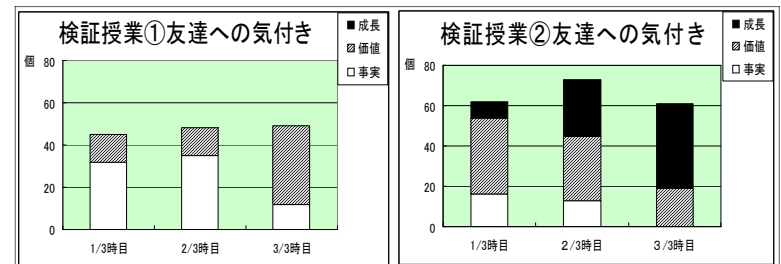


図6 友達への気づきの変容

児童には、そのかかわり方のよさについて、どうしてそう思ったのか、よさを取り入れて行動したら自分の気持ちや行動がどのように変わったかなど、考えるよう、声を掛け支援してきた。視点を与え友達のよさを見付けさせたことが、気づきの高まりにつながっていったと思われる。

(イ) 学年全体の自己評価Ⅱに見られる他者評価の反映(視点Ⅲ)

全児童が自分のよさや成長を見付け、書くことができた。自己評価Ⅱに他者評価(友達、教師、対象者、家族から)をどれくらい取り入れたか、その割合を示したのが図7である。例えば、児童が自分のよさとして「幼稚園の友達と目の高さを合わせて話すことができるようになったよ。」と記述したものに、家族からも、「年下の友達に視線を合わせたり、スピードを合わせて遊ぶことが大事だと分かったのね。できるようになってすごいな。」と評価されていた場合、自己評価と他者評価(家族から)の関連が見られるとして分析した。どの児童も自己評価に他者評価を取り入れていたと思われた。検証授業①②ともに、自己評価に他者評価を取り入れ続けさせたことで、児童は気づき始めた自分のよさや成長を自覚していったものと思われる。

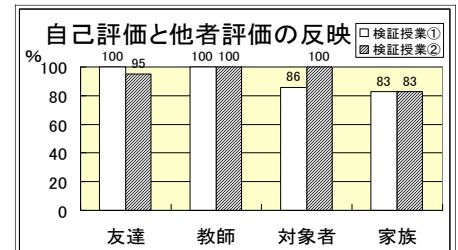


図7 自己評価と他者評価の反映

(ウ) アンケートの結果から

事前調査では、自分の好きなところやよいところ（自由記述）について、スポーツや勉強ができるなど、能力の一面を挙げる児童が多かった。また、約3分の1の児童が分からないと答えていた。事後調査では全児童が

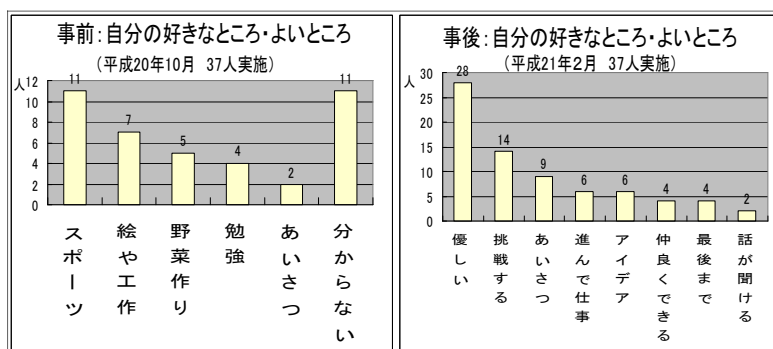


図8 事前・事後の自分の好きなおとこ・よいところの変容

自分の好きなおとこ・よいところ（自由記述）を見付けることができた。図8から分かるように、人に優しくできる、できないと思うことでも挑戦する、最後までがんばれるなど、自分の内面を見詰めた内容になった。事後調査の児童の感想には、「人とふれあうことはいいな、人が喜ぶと自分まで嬉しくなる。活動してきてよかった。」など、かかわる喜びや成就感を味わった記述が多く見られた。また、友達やかかわった対象から褒めてもらい、「たくさん褒められたからがんばることができたよ。」と他者評価が関連し、意欲も向上していると思われる記述も見られた（図9）。

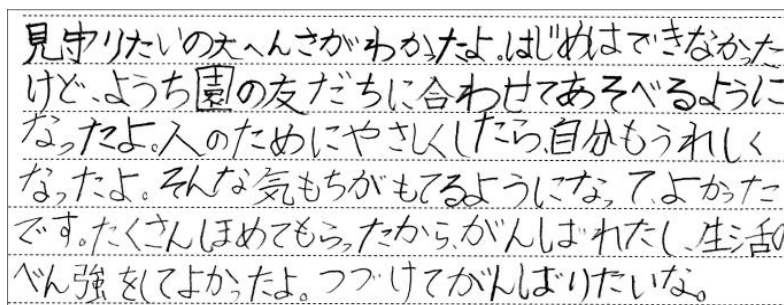


図9 事後調査の児童の感想より

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究の成果

- ア 肯定的な他者評価としたことは、児童にとって次の活動への意欲をもたらした。
- イ 気付きマップに気付きと他者評価を1枚のシートに残させたことで、他者評価を関連させながら、学習を振り返らせることができた。気付き始めた自分のよさや成長を児童に気付かせることができた。
- ウ 教師にとって、気付きマップは、一人一人の気付きや、対象や友達とのかかわりの様子がよく分かり、児童を見取ることができた。教師の指導改善にも役立った。

(2) 課題

気付きマップに集約された情報から、自分のよさや成長を見付ける際に、必要な情報を取り出しやすくするための方法を工夫する。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成20年3月 東京書籍 p.72
- 2) 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 生活編』 平成20年3月 日本文教出版 p.15
- 3) 梶田 叡一 『教育評価』 1992年 有斐書 p.185

《参考文献》

- ・ 村川 雅弘 『「確かな学力」としての学びのスキル』 平成16年 三晃書房